

別紙様式2 (高)

令和5年度 県立日立工業高等学校自己評価表 (定時制)

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの能力・適性・個性を伸ばすとともに「自ら考える力」を育て、創造力豊かな人間の育成をめざす学校 社会の変化に主体的に対応できるよう望ましい人間関係を築かせ、社会で自立できる心身ともに健康な人間の育成をめざす学校 「ものづくりを通じた人づくり」の工業高校の伝統を継承し、生徒一人ひとりの夢や希望の実現を支援していく学校 					
	三つの方針	具体的目標				
「三つの方針」(スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	生徒一人ひとりの能力・適性・個性を伸ばすとともに「自ら考える力」を育て、創造力豊かな人間を育成します。 社会の変化に主体的に対応できるよう望ましい人間関係を築かせ、社会で自立できる心身ともに健康な人間を育成します。 「ものづくりを通じた人づくり」の工業高校の伝統を継承し、夢や希望の実現のために可能性を伸ばし、自分の能力を高め努力する人間を育成します。				
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	県内で唯一の単位制総合学科で、「普通系列」・「工業系列」自分に合った学びができ、さまざまな進路に応じた支援を行います。 基礎学力の定着に重点を置き、義務教育内容の学び直しも含め、基礎基本を重視した教科指導を行います。 通信制課程の高等学校との併修制度を利用し、3年間で卒業できる「3修3卒制」を行います。(希望者対象で、2・3年次での実施となります)				
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	これまでの自分を見つめ、いろいろなことを基礎から勉強し、自分らしく生きていくためのベースをつくりたいと願っている生徒。 自分と他者の良さを大切にし、お互いに励まし合い、協力し合い、学校生活においておだやかに健全な人間関係を築こうとする生徒。 高校卒業後の社会的自立と進路希望の実現に向け、各種資格・検定に挑戦するなど、自分の能力を高めようとしている生徒。				
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
<p>【昨年度の成果】</p> <p>生徒が「わかる」授業を展開することで、基礎学力を定着させることができた。 生徒の学校行事への参加率は上昇し、あわせて協調性・責任感が見られるようになった。 ホームページの更新を定期的に行い、情報発信に努めた。</p> <p>【今年度の課題】</p> <p>アルバイトの奨励も含め、生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。 授業でのICT活用を進め、個に応じた指導を工夫改善し、充実させる。あわせて生徒の資格取得への意識向上を図る。</p>	基礎学力の向上と定着	①生徒の能力や実態に応じた題材や単元を選択し、生徒がわかる授業・主体的に取り組む授業を展開する。 ②授業規律の確立に努める。 ③3年間でも卒業できるメリットを活かし、学習意欲の向上を図る。	B			
	全職員の一体化とコミュニケーションの重視	④全教職員による生徒の規範意識の高揚、マナーの向上に取り組む。 ⑤積極的な情報交換を行い、全教職員の連携を図る。 ⑥全日制進路指導部との連携強化により、生徒に的確な進路情報を提供する。	A			
	勤労観・職業観を育てる進路指導	⑦資格取得のための補講体制を強化する。 ⑧生徒にインターンシップ参加を促し、就労意識の向上を図る。	B			
	生徒の帰属意識の高揚	⑨特別活動部を中心に、校外学習やスポーツデイ等学校行事の充実を図る。 ⑩継続的な部活動を奨励し、定通体育大会での入賞を目指す。	B			
	地域への積極的な情報発信 地域との連携	⑪中学校訪問を積極的に行い、本校定時制総合学科の存在意義をアピールする。 ⑫定期的なホームページの更新、フォトニュースへの投稿を行う。 ⑬地域の人的・物的環境を生かし、教育活動の向上を図る。	B			
	総合学科の確立	⑭円滑な系列選択のためのガイダンスを充実させるとともに、多様な生徒の能力・適性に対応した実践的・体験的な学習指導を推進する。	B			
	働き方改革の推進	⑮生徒に効果的な教育活動を行えるよう、教職員自身の人間性や創造性を高めるとともに、心にゆとりをもって業務が行えるよう、情報資産の効率的な共有化を図る。	B			
	授業改善	⑯生徒による授業評価において授業満足度(KPI)2.5以上を目指す。	A			
	評価項目	具体的目標	具体的方針	評価	次年度(学期)への主な課題	
	教科指導	基礎学力の定着	シラバスに沿ってわかる授業を展開し、基礎学力の定着を図る。 生徒による授業評価も参考にして指導方法等を工夫・改善し、生徒の実態に応じた授業を展開する。	① ①⑯	B B	生徒の実態に応じた授業展開の工夫及びICT機器の効果的な活用。
学習意欲・基礎学力の向上		生徒の実態に応じたわかる授業を展開し、基礎学力の向上を図る。 指導方法や教材を工夫し、表現力の向上に努める。	①⑯ ①	B C		
教科	国語	成績不振者に対する適切な指導	プリント学習と小テストを組み合わせて実施し、基礎学力の定着を図る。	①	B	生徒の実態に応じた授業展開や教材の工夫。 自己肯定感、自己効力感を高めるための質問の工夫。 ICT機器を効果的に活用した深い学びの実践。
		基礎学力の定着化	生徒の実態に応じた適切な支援を行う。	①	B	
	基礎学力の定着化	基礎的内容を繰り返し学習することにより、基礎学力の定着化を図る。 生徒の学力に応じた教材を使用することにより、わかる授業を行う。	① ①	A B		
	適切な学習評価	現代社会の課題を最新のニュースからとりあげ、世界の実情を理解させる。 生徒の実態に応じた評価規準を設定することにより、適切な評価を行う。	① ③	B B		
	成績不振の予防と学習意欲の湧出	学習活動に対する生徒の不安や課題を個別に聞き出した上で、成績不振に陥らないよう創意工夫した授業を行う。 生徒の興味や関心を引けるような授業展開を心掛け、学習意欲の湧出を図る。	①⑯ ①⑯	B B		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科	数学	学習意欲の湧出と基礎学力の定着	重点的に基礎的内容の反復練習を行い、つまづきの克服や基本的計算力を身につけさせる。 学習内容や生徒の実情に合わせたプリント教材を使用し、学習意欲が向上する授業を展開する。	① ①⑯	B A	B 生徒の学力に応じた指導の工夫。	
		思考力、判断力、表現力等の向上	指導方法や教材等を工夫し、数学的な見方や考え方ができるようにする。 授業展開と教材・教具を工夫し、思考力、表現力の向上を図る。	① ①	B B		
		理科	学習意欲および基礎学力の向上	小テストでの反復学習やプリント学習での復習を通して基礎学力の定着を図る。 観察・実験や科学トピックの紹介により自然の事物・現象について興味・関心を持たせ、科学的思考力を身につけさせる。 生徒の実態にあわせて教材や教具等を工夫し、生徒がわかる授業を展開する。	① ① ①⑯		A B C
	保健体育	健康の保持増進と体力の向上	身体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活の取り入れ方などを理解させ継続的に実生活に役立たせる。	①⑯	C	B 生涯にわたって健康の保持増進と体力の向上を目指す態度の育成。	
		集団での規律ある行動の習得	姿勢、方向転換、足踏み、礼等の基本動作を身につけさせ、規律ある集団行動ができるようにする。	②	A		
		豊かなスポーツライフの継続	心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	①	B		
	芸術	表現力の向上を図る	個別指導を丹念に行い、表現力の基礎を向上させる。 さまざまな作例を取り上げ、幅広い表現活動を促す。	①⑯ ①	B C	B 個別指導の充実と用筆法の定着率の向上。 古典の鑑賞及び制作作品を相互鑑賞する時間の確保。	
		鑑賞の基礎的能力を伸ばす	多くの古典やお互いの作品を鑑賞し、それぞれの良さを感じ取らせる。	①	B		
		創造の喜びを実感する	生徒が興味を持つような題材を設定して、意欲を持って制作活動ができるようにする。 作品は必ず完成させ、制作の達成感を味わわせる。	①⑯ ①	C A		
	外国語	基礎学力の向上と定着	生徒の実態に応じた授業を展開し、基礎的な英語表現ができるようにする。 ノートやプリントファイル等の提出物をきちんと提出させ、積極的に英語で表現する態度を育てる。	①⑯ ②	B B	B ICTの活用機会を増やす。	
		コミュニケーション能力を培う	簡単なフレーズや英文を見たり聞いたりして、相手の意思を汲み取ろうとする態度を育てる。 相手に自分の意思を伝えられるよう、簡潔な英語を用いて表現する力を養う。	① ①	B C		
	家庭	家庭に関する知識や技術の習得	生徒の実態に応じた教材やICT等を活用して、基礎的な知識をつけさせる。 実習・実験等を通して家庭に関する興味・関心を深め、生活に必要な基礎的知識や基本的な技術を身につけさせる。	①⑯ ①⑯	A B	B ICTの効果的な活用と探究活動の充実。	
		生活課題を見出し、これを改善しようとする態度の育成	家庭生活の身近な話題により、家庭生活における問題点や課題を見つけ出し、改善しようとする態度を育てる。	①⑯	B		
	工業	基礎・基本的な学力の向上及び各種技能等の習得	専門教科としてわかる授業を展開し、基礎学力の向上と定着を図る。 指導方法・教材教具等を工夫し、自己表現力・情報活用能力を向上させる。 安全への配慮を徹底させ、丁寧な作業説明により実習における技能・技術の習得に努める。	① ① ②	B B B	B 資格取得者数の増加。 実習の施設、設備、備品、材料の整備。 学力差に対応する授業展開の工夫。	
		成績不振者に対する適切な指導	生徒の実情に応じた教材等を工夫することで、学習意欲が向上する授業を展開する。 生徒による授業評価の分析結果から授業を改善するとともに、個別指導の時間を多く確保する。	①⑯ ①⑯	B B		
		検定、資格取得の奨励		各種資格の意義やその活用等について丁寧に説明し、幅広く資格試験へチャレンジさせる。	⑦		B
				必要に応じて補講体制を整備し、生徒のニーズに応える。	⑦		C
	教務	各年次、各校務分掌、各教科との連携	情報交換会を毎日実施し、生徒情報を共有し指導に役立てる。 欠課時数の連絡は、欠課時数連絡表を利用し教科担任からクラス担任へ確実に報告する。 文書やデータを見やすく活用しやすいように整理し、効率的な情報の共有化を図る。	⑤ ⑤ ⑤	A B B	B 長期欠席者への対応方針を検討、対応策の提示。 生徒の多様なニーズに応えられるような教育環境の充実。	
円滑な学校運営		教職員の報告・連絡・相談を密にし、問題点に速やかに対応できるようにする。 学校行事等の精査に努め、効率的な運用を図る。	⑤⑮ ⑨⑭⑮	A B			
計画的な学習指導		シラバスを作成し、計画に沿った学習指導と評価の一体化を推進する。 教員相互の授業参観を進め、授業改善の一助とする。	① ⑯	B C			
単位制総合学科としての対応		単位制総合学科としての教育環境の整備・充実を努める。	⑭	A			
生徒指導 (教育相談を含む)	基本的生活習慣の確立	生徒との会話や面接を通して、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 明るく元気な挨拶や適切な言葉遣いを身につけさせる。	④ ④	C C	B ゲーム等で昼夜逆転の生活をしている生徒に対し、アルバイトを奨励し、正しい生活リズムになるよう支援する。		
	安全で楽しい学校生活の実現と心の教育の充実	立哨指導等で頻繁に声かけを行い、毎日登校する習慣を育成する。	④	C			
		自転車・原付バイク・普通自動車の点検・施錠を徹底し、盗難や事故の未然防止に努める。 教職員やスクールカウンセラーに悩みなどを相談できる雰囲気をつくる。	④ ⑤	A A			
	問題行動の未然防止	全教職員が生徒に関する家庭環境や必要な情報を共有し、組織的に対応できる体制をつくる。	⑤	B			
		定期的に登校指導や校外指導を行い、問題行動の未然防止・早期発見に努める。	④	A			
		家庭、地域社会、警察、児童相談所などの関係機関と密に連携して指導にあたる。	④	B			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
進路指導	3・4年間を見通した進路指導体制の充実	生徒の現状や発達段階に応じて、教職員全体で一貫した指導を行う。	⑥	B	B インターンシップ参加者を増やす。 就労意識の向上。
		適切な時期に進路講話や自立支援講習などの進路行事を実施する。	⑥⑦	A	
	進路情報の提供と生徒の状況に応じた指導	早い時期から生徒の進路希望を的確に把握し、一人ひとりに合った指導を行う。	⑦	B	
		求人票や募集要項等の情報を適宜生徒へ提供し、進路選択を支援する。	⑦	B	
		ハローワークの利用や受験報告書・進路資料等の活用を推進する。	⑦	B	
		教職員全体で履歴書の書き方指導や面接指導を実施し、進路実現を支援する。	⑦⑩	B	
望ましい職業観・勤労観の育成	「産業社会と人間」の授業やLHR等とおして、勤労や職業の意義について理解させる。	⑧	A		
	インターンシップを実施し、自分の適性や将来について深く考えさせる。	⑧⑬	B		
検定、資格取得の推進	情報を的確に伝え、資格取得や検定受験に積極的に取り組ませる。	⑦	A		
	国家資格取得や検定合格を推進するため、補講などの支援体制を強化する。	⑥⑦	B		
特別活動 (保健指導を含む)	学校行事を通じた協調性・責任感の育成	学校行事を工夫・改善し、仲間との連帯感や協調性・忍耐力を深め、学校への帰属意識を高揚させる。	⑨	B	B 生徒の参加率の上昇。 スクールカウンセリングのみならず、 ケースによっては、スクールソーシャル ワーカーを必要に応じて積極的に活用する。
		校外学習や文化祭を通して、協調性・責任感及び成就感を醸成する。	⑨	A	
	定通体育大会への積極的な参加とその継続	生徒は原則全員参加とし、各自が自主的・自発的な活動が促進できるよう適切な指導・援助を行う。	⑩	B	
		安全や健康に気を配るとともに、運動の楽しさや喜びを味わえるよう努める。	⑩	B	
	健康教育を推進及び健康に対する意識の高揚	機会を捉えた保健指導を行い健康の大切さを伝え、健康診断その他保健行事に多くの生徒が受診、参加するよう指導する。	⑤	B	
		生徒の心身の健康及び体力向上に関する指導を、全職員が共通理解のもとに、日常的に行う。	⑤	B	
		個別健康相談活動を通して健康状態や生徒の情報を把握し適切な対応に努める。	⑤	A	
	健康で安全な学校環境の整備及び美化	スクールカウンセリングを積極的に活用し、生徒の悩み・不安等を軽減させ学校生活に集中できるように努める。	⑤	A	
全生徒が積極的に環境美化を心がけるように指導する。		④	B		
防災についての正しい知識を持たせ、非常時に適切な行動が取れるように指導する。		④	A		
将来の生き方を考える活動の実施	ホームルーム活動や道徳において、中・長期的な振り返りと見通しができるよう指導する。	⑦	B		
	キャリアパスポートを積極的に活用し、対話的な活動を通じて将来の意思決定につながる学習過程を重視する。	⑧⑩	B		
総務	保護者のPTA活動への参加	担任と連携し保護者がPTA活動へ無理なく参加出来るように努める。	⑤	C	B 日立地区定通教育振興会総会への出席者を増やし、今後の定通教育について理解を深め、協力と支援に対する共通理解を図る。
	学習支援サポーターとの連携	協力大学と連携し、学生ボランティアによる基礎的な学習内容の復習及び日常生活の相談等を実施する。	⑬	B	
		学生ボランティアと教科担当の連携を深め、生徒の授業に対する理解度について情報交換を密にする。	⑬	B	
	地域や企業との連携	日立地区関係企業への連絡を密にし、本校定時制教育の理解と協力を求める。	⑬	A	
	奨学金制度等の活用	日立地区定通教育振興会事務局の運営により、地域企業との協力関係を深める。	⑬	A	
	奨学金制度を適切に活用するため、情報提供に努める。	⑤	B		
1年次	生徒理解の推進	就労することのメリットについて指導し、給食費助成及び教科書助成制度の活用を促す。	⑤	A	B TPOに応じた言葉遣い、立ち居振る舞いを身に付ける。 アルバイトの奨励。 教室内の整理・整頓・清掃の徹底。 コミュニケーション能力の育成を図る。
		生徒の状況を的確に把握するため、定期的な面談に加え随時面談を行い、きめ細かな指導を図る。	④	B	
	保護者等との連携	家庭訪問や面接などを積極的に実施し、迅速かつ適切な指導を行う。	⑤	B	
		明るく元気に挨拶し、正しい言葉遣いができるよう指導する。	④	C	
		生徒の勤務先等を把握し、勤めていない者に対しては就労の支援を行う。	⑥	B	
	基本的な生活習慣の確立	できるだけ欠席・遅刻・早退をしないよう呼びかけるとともに、欠席をする場合は連絡を徹底させる。	④	C	
		教室内の美化を図り、ゴミの始末等がしっかりできるようにする。	④	A	
		4年間(3年間)を見据えた学習計画に基づき、基礎的基本的な知識の定着を図る。	①	B	
能力・適性の把握及び資格取得等の奨励	資格取得を奨励し、積極的に挑戦することを促す。	⑦	C		
引き継ぎの徹底	年度切り替え時における生徒に関する情報の引き継ぎを的確に行う。	⑤	B		
会計の収支決算	年度ごとの会計決算報告書の収支決算を明確に行う。	⑤	B		
2年次	生徒理解の推進	生徒の状況を的確に把握するため、定期的な面談以外にも随時面談を行い、きめ細かな指導を図る。	④	A	B 規則正しい生活習慣の定着。 コミュニケーション能力の育成。
		必要に応じて電話連絡、家庭訪問などを実施し、迅速かつ適切な指導を行う。	④	A	
	保護者等との連携	成績不振者に個別面談を行うと共に、家庭と連携して成績不振科目の解消に努める。	②	B	
		日常生活を通して、基本的な生活習慣の確立に努める。	④	C	
	基本的な生活習慣の確立	社会人としての心構え、挨拶や礼儀作法を身につけさせる。	④	C	
		機会をとらえて資格取得を奨励する。	⑦	C	
資格取得の奨励	年度切り替え時における生徒に関する情報の引き継ぎを的確に行う。	⑤	B		
引き継ぎの徹底	年度ごとの会計決算報告書の収支決算を明確に行う。	⑤	A		
会計の収支決算					

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
3年次	生徒理解の推進	日頃から生徒を注意深く見守り随時面談を行うことにより、生徒理解や状況把握に努める。	④	B	生徒の精神的および肉体的な成長を促す。
	保護者等との連携	迅速かつ適切な連携を図るため、必要に応じて電話連絡、家庭訪問などを実施する。	④	B	
		成績不振者に個別面談を行うとともに、家庭と連携して成績不振の改善に努める。	②⑩	B	
	基本的な生活習慣の確立とソーシャルスキルの向上	日常生活を通して、基本的な生活習慣の確立に努める。	④	B	
		社会人としての心構え、挨拶や礼儀作法を身につけさせるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。	④	B	
	資格取得の奨励と進路目標の実現	資格取得を積極的に奨励し、将来の進路実現を意識させる。	⑦	B	
		インターンシップを活用し、勤労観・職業観の育成を図る。	⑧	C	
引き継ぎの徹底	早期に生徒の進路希望を把握し、個々の希望に応じた適切な進路指導を行う。	⑥	B		
会計の収支決算	年度切り替え時における生徒に関する情報の引き継ぎを的確に行う。	⑤	B		
4年次	生徒理解の推進	生徒の状況を的確に把握するため、随時面談を行い生徒理解に努める。	④	B	自立支援活動や自己肯定感を高める活動を個々に応じて促す。
	保護者等との連携	迅速かつ適切な連携を図るため、必要に応じて電話連絡、家庭訪問などを実施する。	④	B	
		成績不振者に個別面談を行うと共に、家庭と連携して成績不振の改善に努める。	②	B	
	基本的な生活習慣の確立とソーシャルスキルの向上	日常生活を通して、基本的な生活習慣の確立に努める。	④	B	
		社会人としての心構え、挨拶や礼儀作法を身につけさせるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。	④⑥	B	
	資格取得の奨励と進路目標の実現	資格取得を奨励し、進路実現に生かす。	⑥⑦	B	
早期に生徒の進路希望を把握し、個々の希望に応じて適切な進路指導を行う。		⑦	B		
会計の収支決算	年度ごとの会計決算報告書の収支決算を明確に行う。	⑤	A		
特色ある学校作り	本校教育の特色化を推進する	中学校へ訪問するなどして、本校定時制総合学科への理解と入学生徒の確保に努める。	⑪	B	中学校訪問や学校説明会に向けた全日制広報委員との連携強化。
		2年次からの系列選択を適切に行えるよう1年次対象のガイダンスを充実させる。	⑭	A	
		三修三卒制度の活用について周知を図り、学習意欲の向上を図る。	③	C	

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない